

古事記1300年紀

古事記のふるさと田原本

多神社のお祭り

太安万侶を祭る多神社には、昔からいろいろなお祭りが伝わっています。はるか古代から大和屈指の大社であり、強大な勢力を誇っていました。

戦前に出版された「和州祭禮記」によると、四季折々に、さまざまな祭礼が執り行われていたと記されています。去る4月15日には、春の大例祭「おれんぞ」が、古事記1300年を迎

古事記1300年紀催し案内(6月)

第1回紀記・万葉歴史講座

日時 6月2日(土)午後2時～
場所 町民ホール(町役場西側)
演題 「古事記と安万侶さん」
講師 和田萃さん(京都教育大学名誉教授)
定員 150人(先着順/申込不要)
参加費 200円(観光協会会員は半額)

町観光協会事務局 ☎ 34-2080

古事記のふるさと田原本写真展

期間 6月22日(金)まで
場所 奈良中央信用金庫本店ロビー

えて盛大に執り行われました。今は「餅まき」が中心ですが、約50年前までは華やかに飾り付けたお神輿が村中を練り歩き、五穀豊穡を祈りました。多神社資料館には、このお神輿が大切に保管されています。また今年も、学問と諸芸に秀でた太安万侶にお供えしようと、書と花と幻想的な音楽の競演、太安万侶を讃える歌も交えたフルートアンサンブルの演奏、そして華やかに「風流舞」の演舞が奉納されました。

今も執り行われている主な祭礼は、太安万侶祭(7月6日)、秋の八朔祭(宮向かえ)、秋の例祭、12月の新嘗祭(新年の大とんど)、古事記献上祭(2月28日)などがあります。これらの伝統行事や祭礼は氏子によって支えられています。かつての農作業を中心とした生活習慣の大きな変化や、高齢化などにより、お祭りを継続していくために多くの努力がなされています。

町観光協会事務局



▲書と花と音楽(おれんぞ)
福井悟さん(佐味)撮影



▲餅まき(おれんぞ)
大屋徳太郎さん(西八尾)撮影



イメージ:奈良県ホームページ「記紀・万葉でたどる奈良」より

今月の表紙

ぐりとぐらに、へ～んしん!



読書週間のイベントとして4～5月に「ぐりとぐら」の撮影会が行われました。これは、人気のある本のキャラクターに扮して、読書に親んでもらおうと企画されたもので、帽子やしっぽの生えた服は図書館関係者などの手作り。大好きな「ぐりとぐら」に変身した子どもたちは、きのこやどんぐりの入ったカゴや花を持ち、ポーズを決めて大喜びです。

編集後記

■今年もまもなく梅雨がやって来ます。多くの人には憂うつな季節で私もその一人。天気が悪くなる前に古傷が痛むといいますが、雨の前にズキズキするのは。なので雨の多い梅雨はうんざり。気にすると余計に痛むので、こうなったら「痛む＝もうすぐ雨が降るかも」と天気予報ができる! というようにポジティブに考えるしかなさそうです。 華

■4～5月に、全国で通学中の児童が交通事故で命を失う悲劇が立て続けに起きました。県内でも昨年11月～今年の4月に死亡事故が多発しています。車は便利な乗り物である一方、少しの油断で命を奪う凶器と化してしまいます。安全確認一。車に乗るからには、絶対に怠ってはいけません。私も肝に命じて、ハンドルを握ろう。 永